［7］→［20］へ。
［8］→［19］へ。

［9］→［22］へ。
［10］→［45］へ。
［11］→［20］へ。

［12］
君たちと弥勒の距離は、侵入口が目視できるまでに近づいた。そしてそのことは、君たちが近距離用の防衛機構の標的になることと同義でもあった。
弥勒を守る最後の盾は、まるで石臼だった。二つの円筒が粉をひくようにゆっくりと回転し、雷光がその狭間で爆ぜている。
ヒナの顔が、これまでになく青ざめた。
「恐ろしい力を感じます……威力はこれまでの2つとは比較にならないかも……」
だが、当たらなければなんともない。冷静になれ。君はふと父から聞いた一族の訓を思い返す。
『ピンチの時は己を開いて……』、その続きは、一体何だっただろう？
思い出せないが、まあいい。今は目の前の敵の事を考えよう。
さて、どこに位置取ろうか。プレイシート3から自機の位置を決め、そこに描かれた数字へと飛べ。

［13］
「だめ！　もう私の力では……！」
ヒナの魔力障壁は弥勒の攻撃を防ぐには至らなかった。直撃。大破。そして——君たちの命とともに、地球の未来も同時に消え失せた。
〈エンディング1〉

［14］
諦めた君の心中は、不思議と穏やかだった。全てをやりきった者の諦観。君は物言わぬヒナの頬を撫でながら、地球へと目を向けた。
ちょうど、君の眼下で南太平洋が青く輝いていた。ヒナのいた小島も、きっとこの青の中にあるのだろう。
そういえば——と君はふと思い出す。確か、自分の祖先は、ヒナと同じく南太平洋にルーツがあると聞いていた。それは偶然だろうか、それとも必然だろうか？
だが、君にそれを確かめる術はもう無い。
君に出来る事は、戦闘機という棺桶の中で、静かに死を待つだけだ。
〈エンディング4〉

［15］→［22］へ。
［16］→［44］へ。

［17］→［45］へ。
［18］→［35］へ。

［19］
君の真正面から、槍の切っ先を思わせるような白い光が迫る。どうやらここはウォータンの攻撃範囲内のようだ。
ところで、ヒナの残り魔力は？　0なら［13］へ、1以上なら［27］へ進め。

［20］
槍の切っ先を思わせるような光が、君のすぐ横をすり抜けていく。どうやら、敵の砲撃を回避することに成功したようだ。だが、まだこれからだ。油断はならない。
君は眦を決すると、弥勒に向かって操縦桿を傾けた。［23］へ進め。

［21］
三重の防衛装置をくぐり抜けた戦闘機は、コアへ続く細い通路へと潜り込んだ。戦闘機がなんとか通り抜けられるほどの細い通路を進み、君たちはついに弥勒の最深部へとたどり着く。
「あれがこの船の動力源……コアです」
ヒナが指さした先には中性的な男性の像があった。コアという言葉から想像もつかない、古ぼけた木の像だ。これが何故動力源となり得るのか君にはさっぱり理解出来ないが、ヒナ曰く、『像にため込まれた信仰のエネルギーがこの船を動かしている』らしい。
「これを破壊すれば、弥勒はもう何もできません！」
興奮気味に叫ぶヒナに促され、君はコアに向かってトリガーを引いた。［41］へ。

［22］
どうやらここに位置取ったのは間違いだったらしい。君たちを挟撃するように、鳥の羽根のような飛来物が左右に迫る。さて、ヒナの残り魔力は？
0ならば［13］へ、1以上なら［2］へ進め。

［23］
主砲・ウォータンに撃墜される事態は回避した。だが、弥勒にはまだ二つ防衛機構が残っている。
弥勒の両翼から、白い翼のような迎撃ユニットが展開される。次はあれが、君たちを狙うのだろう。
どうか乗り切れますように——。合わせた両手に、小さな袋を握りしめて目を閉じた君を、ヒナが興味深そうにのぞき込む。
「先祖代々伝わる、大事なものだ。こうやって握りしめると、良いことがあるって聞いてる」
君がそう言うと、ヒナはなぜか嬉しそうに、「そう、大事にしてね」　とほほ笑んだ。
さて、どこに位置取ろうか。プレイシート2から自機の位置を決め、そこに描かれた数字へと飛べ。

［24］→［19］へ。

［25］→［20］へ。

［26］
ヒナの最後の魔法によって、戦闘機はわずかに制御を取り戻した。ティアレはよろめきながら狭い通路をくぐり抜け、宇宙空間への脱出を成功させる。
だが、そこまでだった。戦闘機は真空の中で完全に沈黙した。ヒナもぐったり倒れ込み、いくら呼びかけても返事が無い。万事休すだ。絶望的な状況にある君の目の前で、弥勒が地球の引力に引かれ、墜落していく。もう地球を脅かすものは何も無い。目的は達成した。地球の人々は救われる。だから——君は、自分の役目は終わったと諦めてもいい。［14］へ。

だが、君は諦めないことも出来る。もしまだ足掻くのならば、［46］へ。

［27］
「祈りの力は歌となり　歌が未来を呼び起こす——」
ヒナの歌声とともに展開された魔術障壁によって、主砲の攻撃は雲散霧消した。
しかし、ウォータンの脅威が解決したわけではない。もう一度、弥勒の懐へと潜り込まねば。
ヒナの魔力を1減らし、［1］へと戻れ。

［28］
魔力を使い果たした君たちに、もう為す術はなかった。制御を失った戦闘機は、通路の壁に叩きつけられ大破した。炎と黒煙。そして爆発。肉塊と化した君たちと狂信者たちとを乗せて、弥勒は地球目がけて落下する——。
〈エンディング2〉

［29］→［22］へ。
［30］→［35］へ。
［31］→［22］へ。

［32］→［44］へ。
［33］→［20］へ。
［34］→［35］へ。

［35］
君は見事な操縦によって稲妻の回避に成功した。あとはコアを狙うだけだ。［21］へ進め。

［36］
「暗い未来を折り曲げて　真の未来はすぐそこに——」
歌声とともに展開したヒナの魔術障壁によって、君たちはかろうじて稲妻の直撃を免れた。
だが、ヒナの消耗は激しかったようだ。眉間に皺を寄せ、肩で息をしている。もしかすると次の一撃は耐えられないかもしれない……。ヒナの魔力を1減らし、［12］へ戻れ。

［37］→［20］へ。
［38］→［45］へ。

［39］→［44］へ。
［40］→［22］へ。

［41］
君の一撃で、コアは木っ端微塵に破壊された。
これで地球は救われる。安堵の息を吐く君の耳に、どこからか不気味な声が響いた。
（……我らを忘れ、また我々を破壊するか。我らが不要だというのならば、我らとともに滅べ、信仰無き者たちよ……！）
声の主は、コアの残骸だ。君の前に漂うアルカイックスマイルの巨大な頭部。その口元がにやりと歪んで、君たちを嘲笑う。

「ああ、駄目です……！　制御系が、コアの魔力に浸食されています！」
さて、ヒナの残り魔力はいくらだろうか？　0なら［28］へ。1以上ならば［26］へ。

［42］→［20］へ。

［43］→［19］へ。

［44］
どうやら君は位置取りに失敗したようだ。君の機体の上部から高出力の稲光が降り注ぐ。
さて、ヒナの残り魔力はいくらだろうか？
1以下であれば［13］へ、2以上であれば［36］へ進め。

［45］
左右から放たれる無数の飛来物をひらりひらりとかわして、君たちは無事に先へと進んだ。残るはあと一つ。もう少しだ。［12］へ。

［46］
君は、気を取り直すと、今出来るあらゆる事を試した。だが、そのどれもが無駄に終わった。
もう駄目だ——再び諦めかけた君の脳裏で、おぼろげだった過去の記憶が蘇る。
『ピンチの時は己を開いて、全てを裏返して考えるのだ』——！　（この本のどこかへ続く）

［1］
高度一万キロメートルの真空の中を、ティアレは気配を消すように進んだ。
ヒナの魔法は優秀だ。敵艦のレーダーを見事に誤魔化した彼女は、弥勒の白い偉容を前に、唇を引き結んだ。
「弥勒。ホトケと呼ばれる失われた神格の一つ。そして世界を救済する者。でもそれはまだ五十六億七千万年後の話。地球はまだ、救われるには早すぎる」
「その通りだ。俺たちの地球にこれ以上手出しはさせない……いくぞ、ヒナ！」
君は出力を上げて、弥勒の懐へと飛び込んだ。やっと君たちの存在に気付いた弥勒が、ルーンの彫られた砲身をまっすぐ君たちへ向ける。
「数発なら、私の魔力で相殺することが出来るけど……でも過信はしないで」
さあ、ここからが本番だ。さて、どこに位置取ろうか。プレイシート1から自機の位置を決め、そこに描かれた数字へと飛べ。

［2］
「太陽と月とを山として　星の間を谷とする——」
歌声とともに、ヒナが魔術障壁を展開する。両翼からの飛来物は、魔力光の中に溶けて消えた。
さてもう一度、弥勒への接近に挑むとしよう。ヒナの魔力を1減らし、［23］へ戻れ。

［3］→［44］へ。
［4］→［35］へ。

［5］→［44］へ。
［6］→［22］へ。